



J A N S I
Japan Nuclear Safety Institute

一般社団法人
原子力安全推進協会

→ JANSIIについて

About Us

東京電力福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないためには事業者が自主的・継続的に安全性向上に取り組み、その時点での世界最高水準の安全性(エクセレンス)を達成できるよう努力すると共に、さらに高みを目指して自らエクセレンスを生み出すよう努力していく(この二つを総称して「エクセレンスの追求」という)必要があると、原子力産業界は認識しました。

そして国が定めた規制基準を守ることは大原則としつつ、民間の第三者機関が事業者を牽引して更なるエクセレンスを自主的に追求する仕組みとして平成24年に自主規制組織である原子力安全推進協会(JANSII)を設立しました。

→ ミッション、ビジョン

Mission & Vision

JANSIIは、事業者の原子力安全向上への継続的な取り組みが実効的かつ効率的になされることを確実にするために、JANSIIの進むべき道としてミッション(経営理念)を定め、それを達成するための未来図としてビジョンを定めています。

ミッション (経営理念)

JANSIIは、日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求(～たゆまぬエクセレンスの追求～)を確実なものとするため、原子力事業者の自主的継続的安全性向上活動を牽引する。

ビジョン (経営理念達成のための未来図)

JANSIIは、原子力産業界の原子力安全確保における自主規制組織として、自らを高め、原子力安全における基準となるエクセレンスを明確化し、事業者にエクセレンス追求を求めている。また、原子力施設評価を通じてエクセレンスとのギャップを同定し、必要な支援活動を実行している。

→ 活動方針

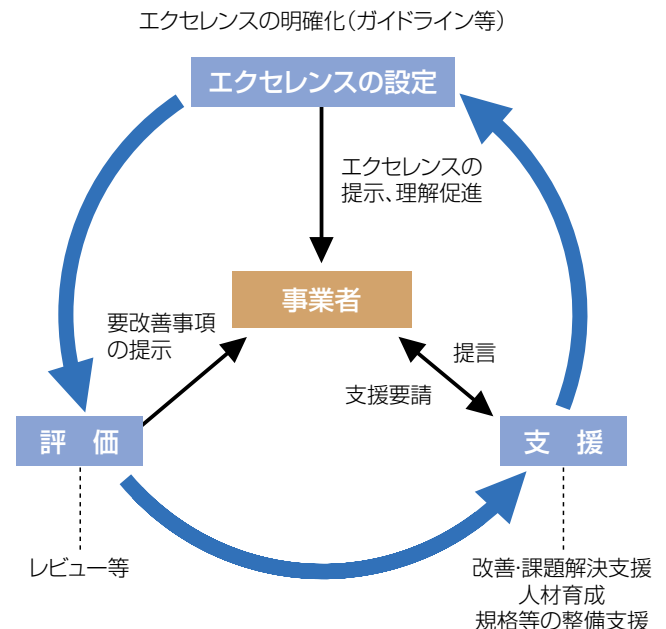
Activity Policy

JANSIIは、

- 国内外の最新情報の収集、分析を踏まえた「安全性向上策」の評価、提言・勧告及び支援
- 原子力施設の運営状況や設備の状態、安全文化の健全性等の確認を通じた「原子力施設」の評価、提言・勧告及び支援

をその活動の二本柱としています。

この二本柱を推進するため、適切なエクセレンスを設定し、効果的な評価を行うと共に、事業者の課題解決に向けて積極的に支援する、というサイクルを回すことにより事業者の安全性向上の取り組みを牽引します。

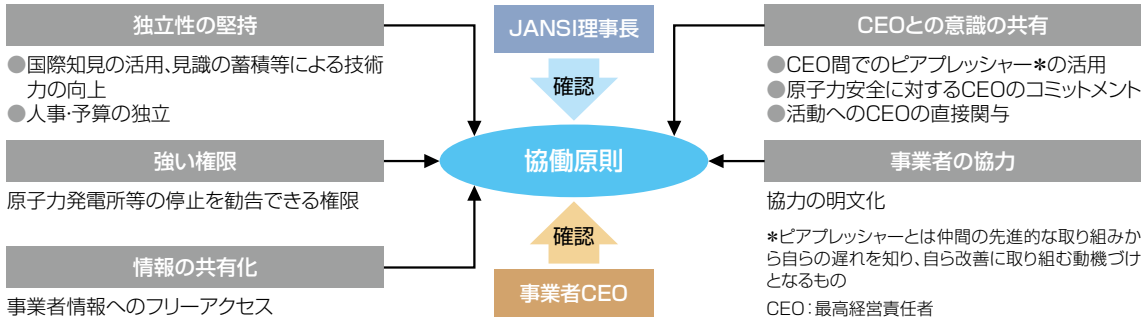


→ 組織運営

Operation of JANSI

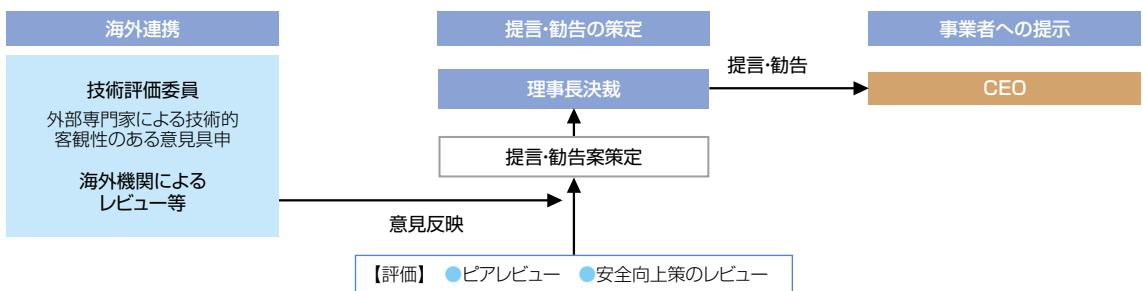
事業者との協働(協働原則)

事業者からの独立性と安全性向上活動についての牽引機能を確かなものとするために、JANSIは事業者と協働原則を確認しています。



提言・勧告の客観性の確保

提言・勧告の策定にあたっては必要に応じて技術評価委員からレビューを受け、その客観性を確保します。また、提言・勧告を発出する際は、理事長から直接行う仕組みとしています。

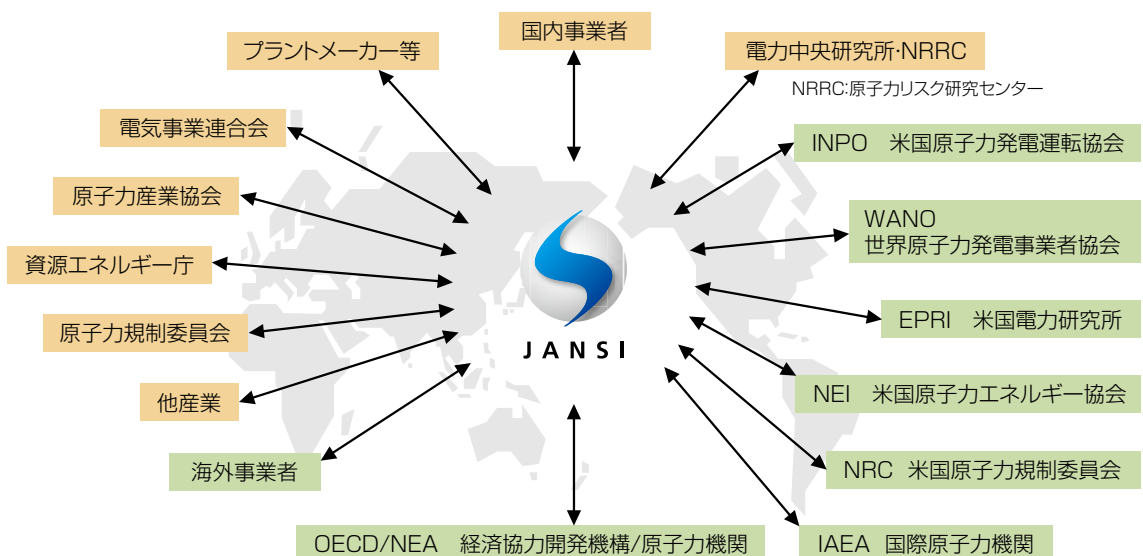


国内外関係機関等との連携

JANSI及び事業者のトップが原子力安全に焦点を絞ってリーダーシップを発揮できるよう、事業者及び産業界のステークホルダーとの協働関係を構築しています。

また、原子力規制委員会、原子力規制庁、経済産業省(資源エネルギー庁)との意見交換、電力中央研究所、電気事業連合会、日本原子力産業協会と交流を行うほか、海外の機関や専門家との連携も積極的に進めています。

さらに、JANSIの事業運営全般に対して助言を行う国際アドバイザー委員会との意見交換や、個別の技術課題について専門家の立場から客観的な評価を行う技術評価グループを通じて、JANSIの経営及び活動の実効性を高めています。



→ 主要活動プログラム

Main Programs

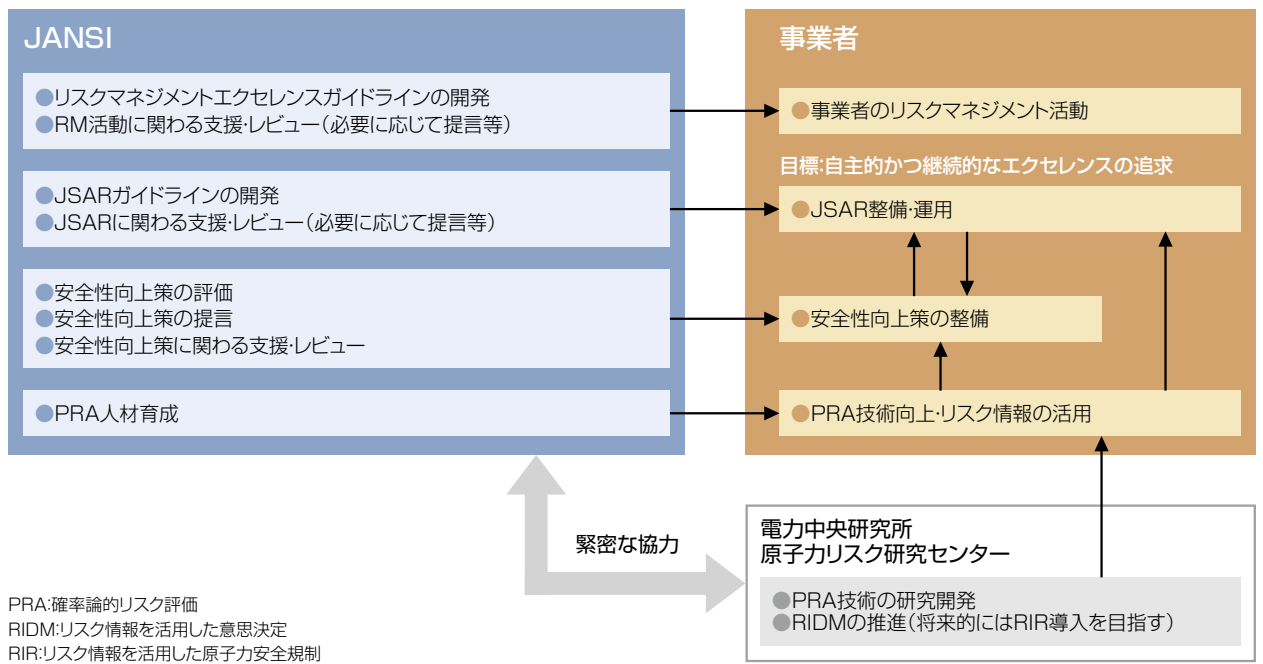
活動の二本柱(「安全性向上策」と「原子力施設」)の評価、提言・勧告及び支援)が期待されるパフォーマンスを発揮するため、JANSIでは次の活動プログラムに取り組んでいます。

Program 安全システム向上プログラム

安全上重要な設備の設計等やマネジメントに関して評価し、安全性向上策の評価と提言・勧告及び支援するための活動を実施しています。具体的には、次のような活動に取り組んでいます。

- ①RM(リスクマネジメント)に関するレビュー体制づくりを進めると共に、事業者によるRMへの取り組みを支援しています。
- ②安全向上策(まずはシビアアクシデント対策)及び火災防護対策についての評価を行っています。
- ③自主的安全性の向上に役立てると共に、許認可関連文書の簡素化への対応や、事業者自らの教育等の力量向上・技術伝承等に資する目的で、JSAR(日本版事業者自主安全評価書)を作成するためのガイドラインを作成しています。

■安全システム向上プログラムの全体像

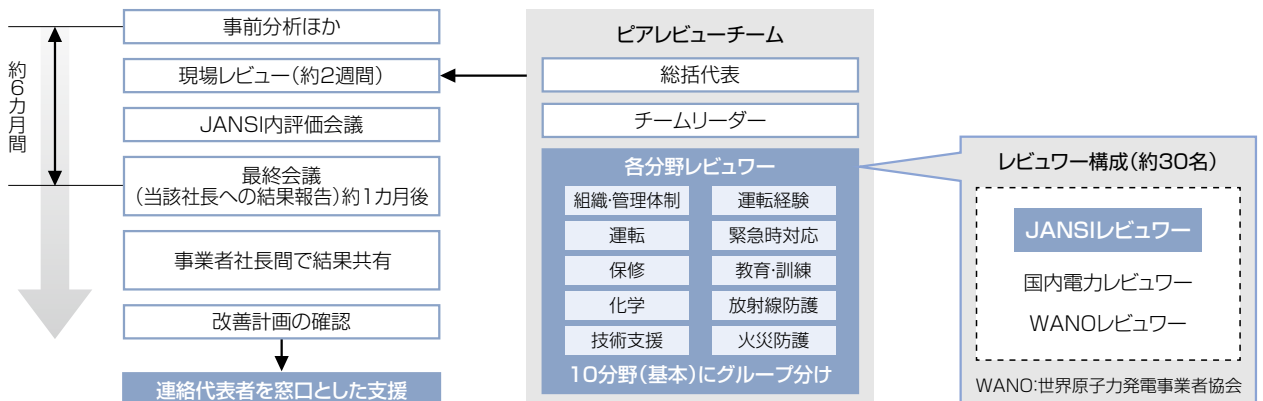


Program 原子力施設評価(ピアレビュー)プログラム

ピアレビューや特定テーマレビューを通じて、原子力施設の運営状況や設備の状態、安全文化の健全性や改善への取り組み具合をエクセレンスとの比較において評価し、それぞれのレベルを引き上げるための提言・勧告及び支援を実施しています。

また、WANO東京センターと連携し、相互の能力向上に取り組むと共に、WANOの活動を通じて世界の原子力安全向上にも貢献していきます。

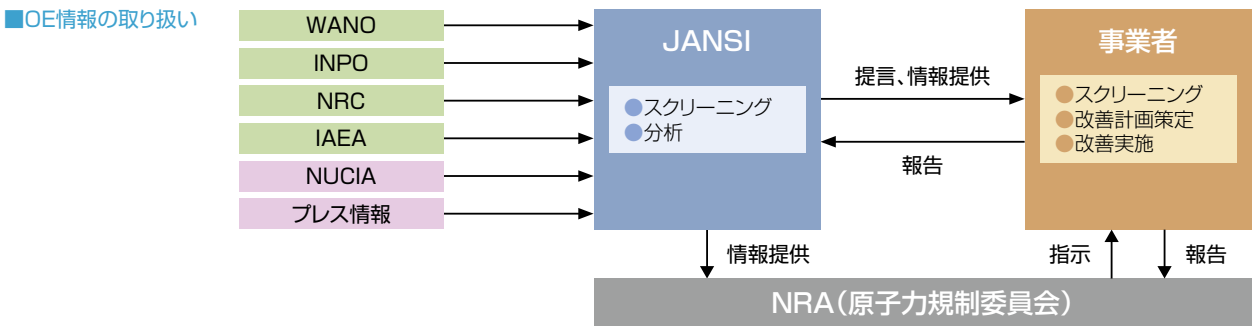
■ピアレビューの概要



Program 情報活用プログラム

国内外のOE(運転経験)情報を活用して原子力発電所の安全性向上を推進しています。JANSIは集められたOE情報を分析すると共に、トラブル再発防止の徹底を図るため、新たに事業者が取り組むべき対策等を取りまとめ、事業者に提示しています。

また、NUCIA(原子力施設情報公開ライブラリー)に登録された国内のOE情報に関して、水平展開検討の必要性および検討内容をNUCIAを通して事業者へ提供し、対応を求めています。



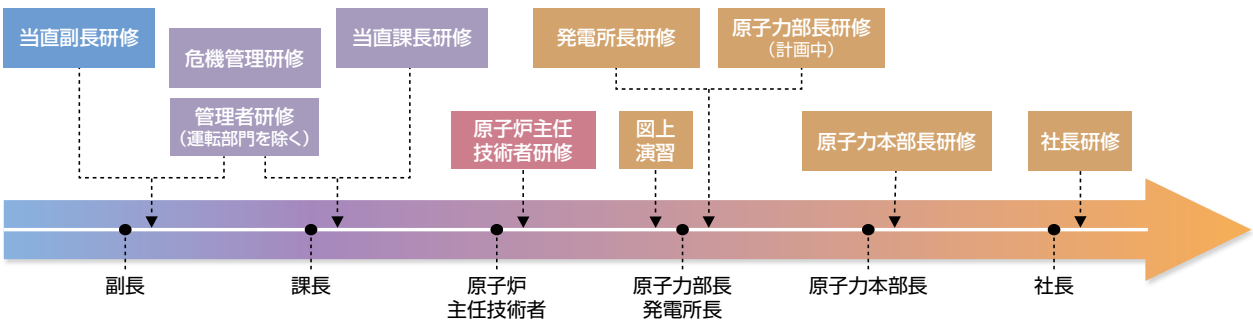
Program 人材育成プログラム

世界最高水準の原子力安全を達成するため、事業者(協力会社を含む)が主体的に人材育成の充実・強化を図ることができるよう、仕組みを構築・運用しています。

●リーダーシップ研修

東京電力福島第一事故の反省を踏まえ、原子力特有のリスクを認識したリーダーシップを強化するため、使命感、危機管理、組織運営等の資質面を主体に事業者の経営層から管理者層に至る各階層に対する研修やセミナー等を開発・実施しています。

●リーダーシップ研修の概要



●資格認定業務

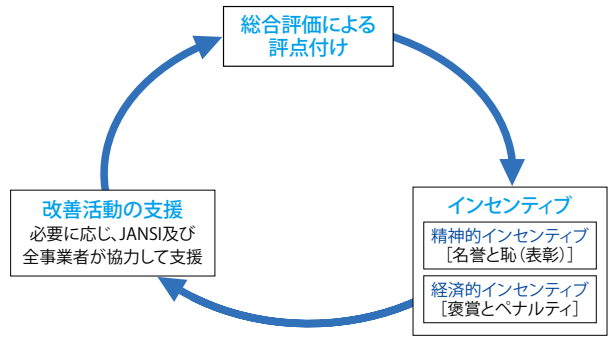
原子炉設置者からの指定を受け、原子力発電所運転責任者の判定に係る規定(JEAC4804)及び原子炉設置者の合否判定規定に整合した運転責任者の判定業務を独立性、公平性及び公正性を保って実施しています。

また、原子力発電所の保全工事作業者を対象に、全国共通でその技量を客観的に評価し、資格を認定する保全技量認定制度を運用しています。

Program 発電所総合評価システムプログラム

発電所総合評価システムは、主に稼働中の原子力発電所を対象に安全に取り組む活動を総合的に評価し、そのランク付けに基づいて事業者に自主的な原子力安全向上のインセンティブを与え改善に繋げる活動であり、支援を必要とする事業者には必要に応じてJANSI及び他の事業者が協力して支援を行います。

JANSIでは、発電所の自主的な安全性向上への取り組みを効果的に活性化する仕組みとなるよう事業者とも意見交換を行いながらシステムを順次運用することとしており、平成28年度から運転実績PI(指標)等にもとづく評価を開始しています。

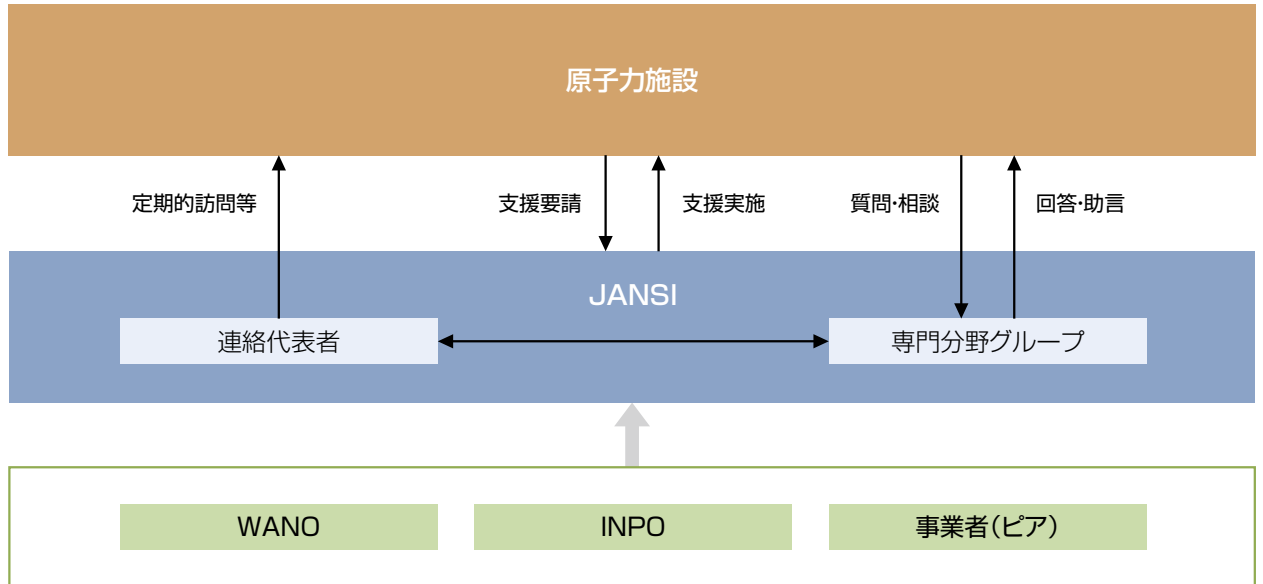


Program 支援プログラム

● 連絡代表者(SR)と専門分野グループが連携した原子力施設の支援

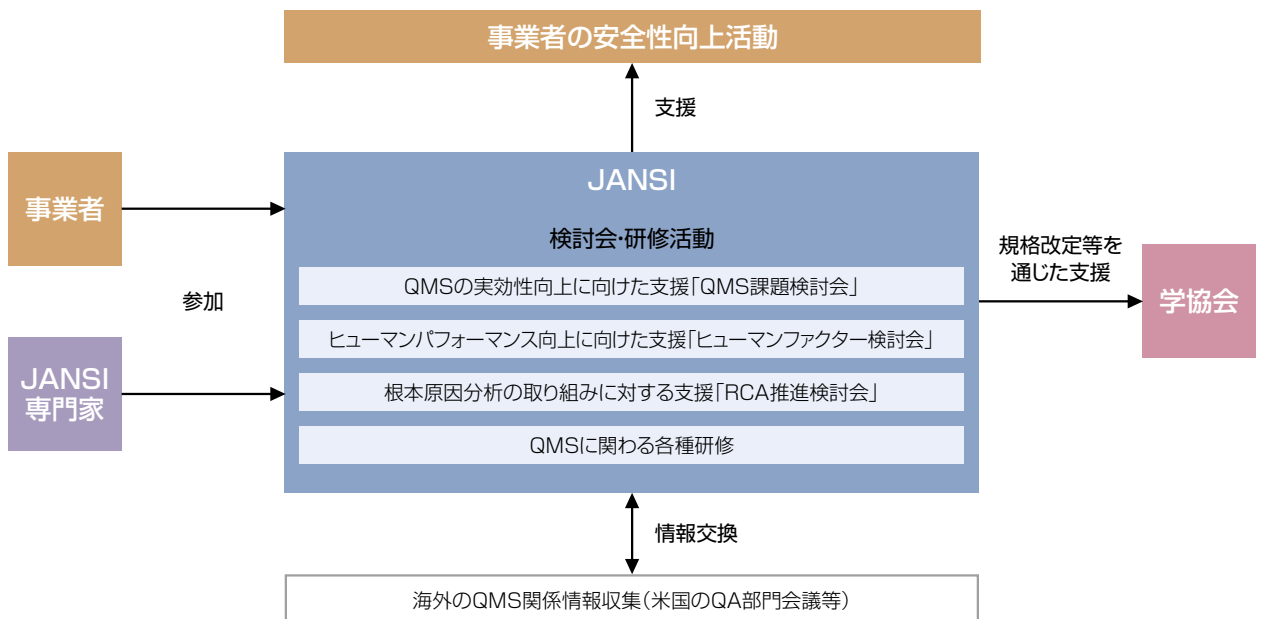
JANSIでは事業者支援の仕組みを維持・強化するため、原子力施設との窓口役として連絡代表者を設置し、原子力施設における安全性向上活動に対する効果的な支援を事業者と連携しながら行っています。平成28年7月にはグループを専門分野ごとに再編、問い合わせ窓口を明確化して原子力施設との更なる緊密化を図り、原子力施設の安全性向上を支援しています。

■ 原子力施設の支援の概要



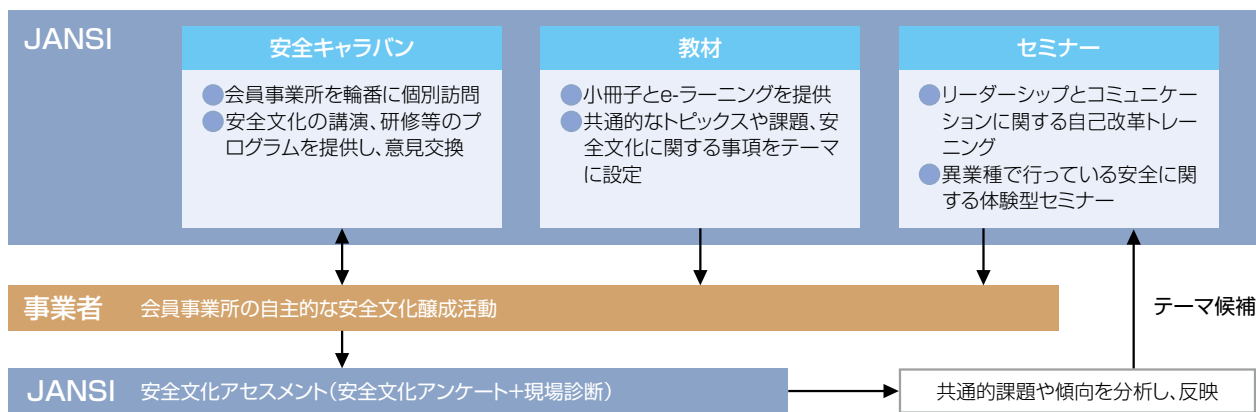
● 自主保安活動への支援

事業者の自主保安活動(QMS<品質マネジメントシステム>)の実効性やヒューマンパフォーマンスの向上が継続的に行われるよう支援しています。



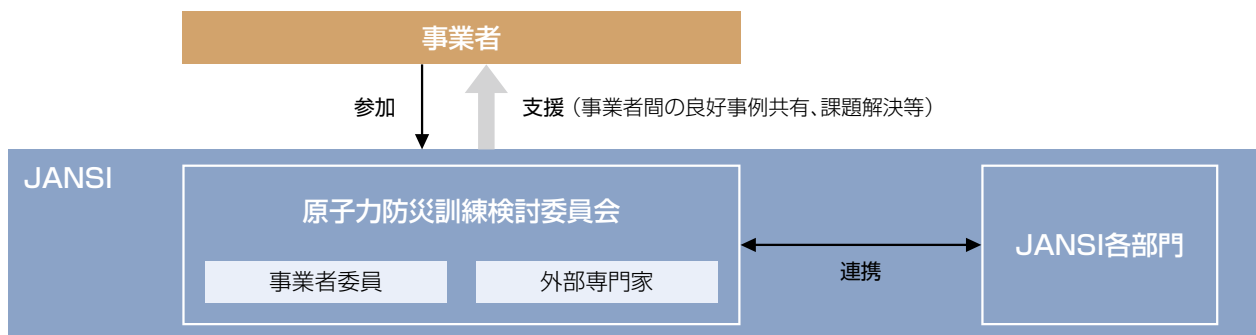
● 安全文化醸成活動の推進

事業者の安全文化の「評価」と、事業者が行う自主的な安全文化醸成活動について「支援」を行っています。活動にあたっては、国内外の関係機関とも情報交換を行うと共に、規制からの独立した立場を堅持しつつ、規制当局との適切な関係構築を行います。



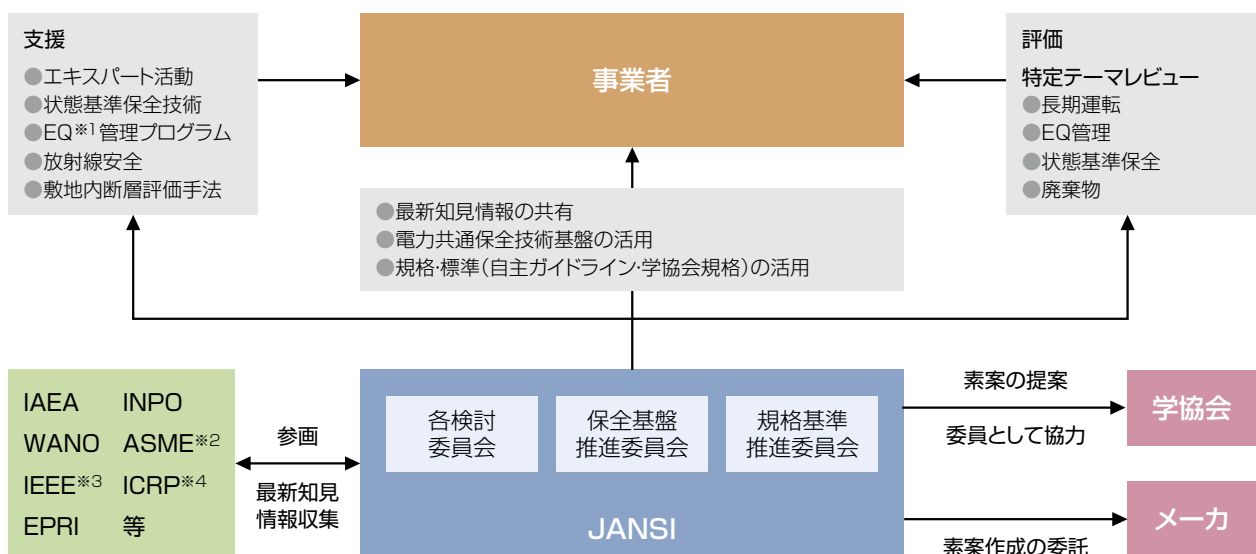
● 原子力防災、緊急時対応への支援

「原子力防災訓練ガイドライン」を制定し、訓練を計画・実施する上での基本事項を事業者に提示しています。また、「原子力防災訓練検討委員会」を通じて、防災訓練の実効性の維持向上を図り、良好事例の事業者間の共有や事業者が抱える課題の解決を支援しています。さらに、訓練を各事業者が観察して助言すると共に、自らの活動に反映することを目的とする「防災訓練アシスタンスビジット」を実施するなど、事業者の緊急時対応能力の自主的改善の取組みを支援しています。



Program 基盤強化プログラム

原子力に係る規格・標準や電力共通保全技術基盤の整備に取組むと共に、これらを活用して事業者の安全性向上活動の支援を行っています。また、特定のテーマを対象とした評価(特定テーマレビュー)も行っています。



※1 EQ: Environmental Qualification 安全系電気計装品の耐環境性能
 ※2 ASME: American Society of Mechanical Engineers 米国機械学会
 ※3 IEEE: The Institute of Electrical and Electronics Engineers 米国電気電子学会
 ※4 ICRP: International Commission on Radiological Protection 国際放射線防護委員会

